

場所 1 :  
e. 長短の線分の反復

場所 2 :  
e. 長短の線分の反復

場所 5 :  
e. 長い線分の反復

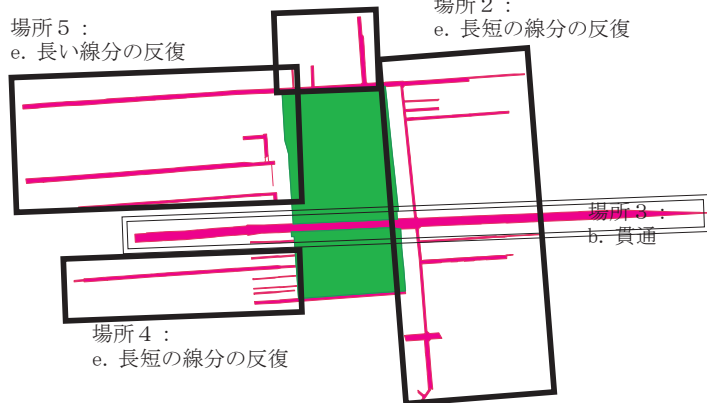


fig4. 12.4 猿江公園の視覚領域の分類  
s = 1 : 25000

## ■視覚領域の類型

猿江公園の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所 1 : e. 長短の線分の反復

場所 2 : e. 長短の線分の反復

場所 3 : b. 貫通

場所 4 : e. 長短の線分の反復

場所 5 : c. 長い線分の反復

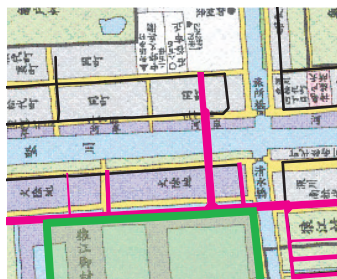


fig4. 12.5 江戸期と視覚領域  
1 : 15000



fig4. 12.6 現在と視覚領域  
1 : 15000

○場所 1 : e. 長短の線分の反復

分析 A

河川

河川によって視覚領域は途切れるが、橋がある場所  
は対岸まで続く。

分析 B

公園：低いフェンス、植え込み

周辺：あふれ出し

マンションと密集住宅地が混在している。住宅の前  
にはあふれ出しが目立つ。



fig4. 12.7 公園に面する道路



fig4. 12.8  
公園に向かう道路からの  
緑の見え



fig4. 12.9  
住宅の前のあふれ出し

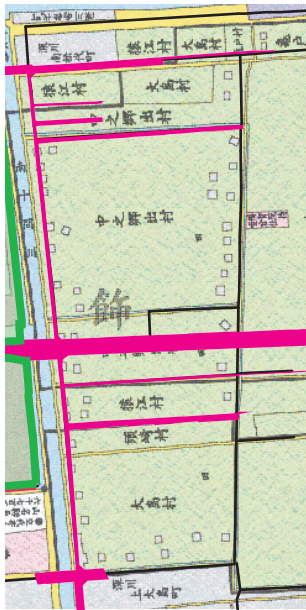


fig4. 12. 10  
江戸期と視覚領域  
1 : 15000



fig412. 12  
河川にあるボードウォーク



fig4. 12. 11  
現在と視覚領域  
1 : 15000



fig4. 12. 13  
公園に向かう道路からの  
緑の見え

## ○場所 2 : d. 短い線分の反復

### 分析 A

江戸期のみちによる街路パターンの切り替わり

### 分析 B

公園には河川が面している。

河川にはボードウォークがつくられているが、公園とは繋がっていない。

## ○場所 3 : b. 貫通

### 分析 A

境界なし

### 分析 B

公園：植え込み

周辺：街路樹、幹線道路

公園を幹線道路が貫通しているが、両者に繋がりはありません。



fig412. 14  
江戸期と視覚領域  
1 : 15000



fig412. 15  
現在と視覚領域  
1 : 15000



fig4. 12. 16 公園を貫通する道路からの  
緑の見え

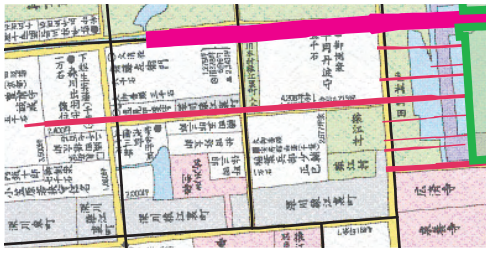


fig4. 12. 17 江戸期と視覚領域  
1 : 15000

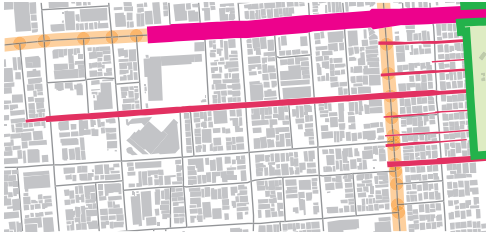


fig4. 12. 18 現在と視覚領域  
1 : 15000



fig4. 12. 19  
路地から公園への入り口



fig4. 12. 20  
路地からの緑の見え

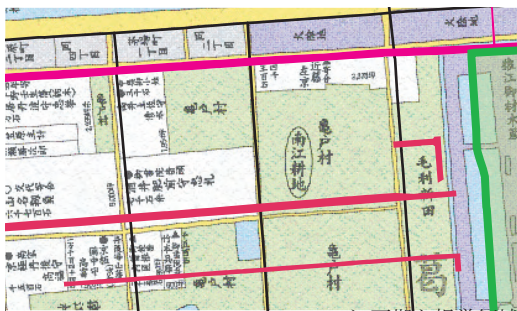


fig4. 12. 21 江戸期と視覚領域  
1 : 15000

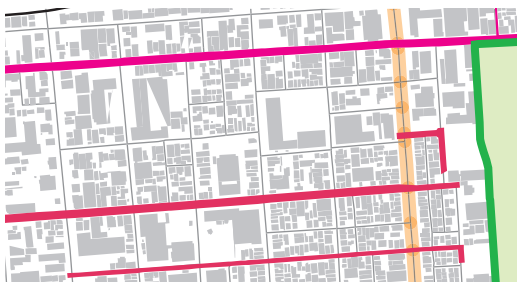


fig4. 12. 22 現在と視覚領域  
1 : 15000



fig4. 12. 23 公園に向かう道路からの  
緑の見え

#### ○場所 4 : e. 長短の線分の反復

##### 分析 A

幹線道路

##### 分析 B

公園：路地からの入り口

周辺：路地、あふれ出し

公園には路地が繋がっていて、住宅からの避難用に  
入り口が設けてある。

#### ○場所 5 : e. 長短の線分の反復

##### 分析 A

境界なし

江戸期からある街路パターン

グリッド状の街区パターンで直線の道路のため、視  
覚領域は途切れない。一部学校のグラウンド越しに緑  
が見える。

##### 分析 B

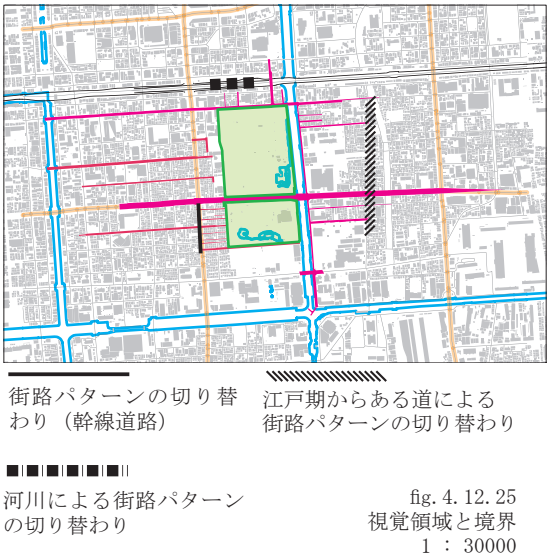
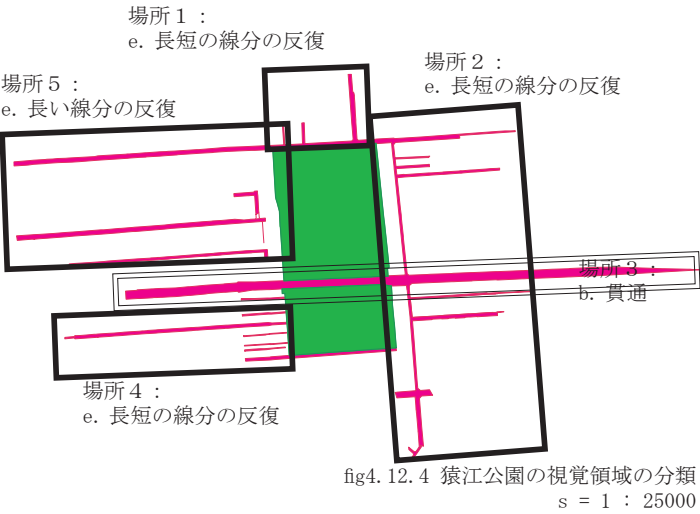
公園には学校やマンションが隣接している。

小括

猿江公園の視覚領域の境界をまとめると以下のようになる。

場所	視覚領域の類型	江戸期の土地利用	視覚領域の境界
1	e. 長短の線分の反復	火除地	河川
2	e. 長短の線分の反復	百姓地	街路パターンの切り替わり
3	b. 貫通	貯木場	なし
4	e. 長短の線分の反復	田、武家地	幹線道路
5	c. 長い線分の反復	百姓地、武家地	なし

fig. 4. 12. 24  
猿江公園の視覚領域の境界一覧



猿江公園一体は震災後の帝都復興事業により、グリッド状の幹線道路がつけられた。道路は直線で視覚領域に広がりがある。ヒエラルキーの低い道は、幹線道路で途切れ、視覚領域も途切れる。





fig. 4.13.1 木場公園と地形  
1 : 25000

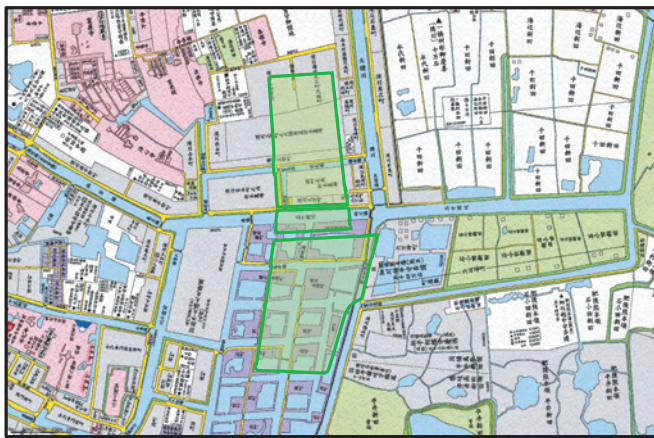


fig. 4.13.2 江戸時代の木場公園周辺  
1 : 25000

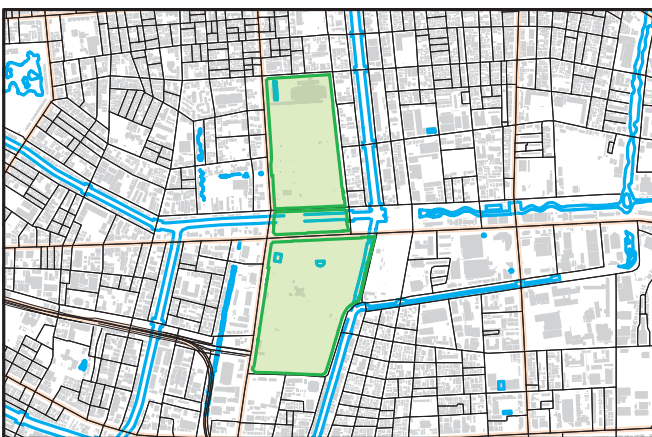


fig. 4.13.3 現在の木場公園周辺  
1 : 25000

#### 4.1.3 木場公園

##### ■地形との関係

公園は低地にあり、地形の変化は見られない。

##### ■江戸時代の木場公園周辺

木場は、江戸から昭和にかけて江戸・東京へ材木を供給する場所であった。木場公園となる場所も、運河が張り巡らされ町人地がある。

##### ■現在の木場公園周辺

昭和44年に、江東再開発構想のなかの防災拠点の一つとして位置づけられ、木材関連業者が現在の新木場へ移転したのを機に、水と緑の森林公園として整備された。公園は、葛西橋通り、仙台堀川によって南、中、北の3地区に分けられており、木場公園大橋が各地区を連絡している。公園の北側には、現代美術館がある。

運河は埋め立てられた場所が多い。